平成20年度全十勝中体連

軟式野球専門委員会

平成20年4月17日
帯広市立南町中学校

【平成20年度全道レベルの大会】

『第25回全日本少年軟式野球大会 北海道予選会』について

- 1.会期 平成20年7月18日～7月21日 ※雨天順延
- 2.会場 後志支庁（共和町・岩内町）

【昨年度より春季大会優勝校に優先出場権を与える→協議確認事項】

『第59回北海道中学校軟式野球大会』の開催について

- 1.会期 平成20年8月1日～8月4日 ※雨天順延
- 2.会場 後志支庁（共和町・岩内町）
- 3.備考 ◎申し込み締め切り 平成20年7月18日必着
- 4.全国大会 平成20年8月19日～8月22日 長野県 諏訪市

【全道中学校軟式野球大会：準優勝校に優先出場権→協議確認事項】

『第5回北海道中学校軟式野球選抜選手権大会』について

- 1.会期 平成20年10月10日～10月13日 ※雨天順延
- 2.会場 滝川市・新十津川町

【全十勝秋季大会優勝チームに出場権→協議確認事項】

『第13回道東ブロック中学校秋季軟式野球大会』について

- 1.会期 平成20年10月11日～10月12日 ※雨天順延
- 2.会場 十勝（帯広市）

【全十勝秋季大会準優勝チーム・3位チーム(2校)に出場権
4位チームを「開催地枠代表とする」

§ 協議・確認事項 § (決定事項)

- ★ (1) 『平成20年度全十勝中学校軟式野球大会』：方面出場校の確認
今年度各種大会の参加校確認と割り振り(全41校)

		帯広市	東 部	北 部	西 部	南 部	東北部
	方面出場校	13	8	7	7	4	2
出 場 枠	春季大会(19)	6	4	3	3	2	1
	夏季大会(19)	6	4	3	3	2	1
	秋季大会()						

※秋季大会の出場枠については優秀選手選抜会議で決定する。

- (2) 会場優先順位の確認

- ①帯広の森野球場 ②帯広の森平和球場 ③伏古別公園球場
- ④幕別町営球場 ⑤音更町営球場 ⑥芽室町営球場の順とする

- (3) 『平成20年度全十勝中学校軟式野球大会』各日程の確定 (別紙)

☆第30回全十勝中学校春季軟式野球大会

- ☆第59回全十勝中学校夏季軟式野球大会
- ☆第31回全十勝中学校秋季軟式野球大会
- ☆第7回全十勝中学校選抜野球選手権大会

(4) 全十勝大会運営に関わって

→昨年度の専門委員会、合同顧問会議で確認されたように、帯広市顧問だけの運営から今年度は、方面顧問まで枠を広げて各種大会の運営をしていく。(別紙参照)

(5) 『平成20年度全十勝中学校軟式野球大会』大会特別規則の見直し
(別紙参照)

- ① フィールディング補助員の服装について
→練習着・学校ジャージでも可、危険防止のためヘルメットを着用するのが望ましい。
- ② 1塁および3塁コーチ、バットボーイは登録選手が行うこととし、危険防止のため打者用ヘルメットを着用するのが望ましい。
- ③ ストッキングについて
→ハイカットストッキングやソックス一体型は禁止
- ④ バットボーイについて
→登録選手が行うこととし、危険防止のためヘルメットを着用するのが望ましい。
- ⑤ 捕手について
→捕手(投球練習時の捕手含む)については、急所カップを着用することが望ましい。
- ⑥ 複合バットの使用について
→全国は平成20年度から複合型バットの使用を禁止
→全道は平成21年度から上記規則を適用する
※ただし、軟野連公認のオールカーボンバットは従来どおり使用可
→全十勝(方面大会含む)レベルでは、
・平成20年度夏季大会までは複合型バットの使用は可。
→今年度秋季大会から全十勝(方面大会含む)でも使用禁止

(6) 全道レベル大会への出場権

第59回北海道中学校軟式野球大会(全十勝夏季大会優勝チームに出場権)
→上記以外の4大会の出場権について

大会名	出場権
『第25回全日本少年軟式野球大会 北海道予選会』	全十勝春季大会優勝チームに優先出場権を与える。辞退の場合は、準優勝チームに。順次、優勝チームに準決勝で敗れた3位チームに、準優勝チームに敗れた3位チーム出場権を与える。以下は出場権なし。
『全道中学校軟式野球大会』	全十勝夏季大会準優勝チームに優先出場権を与える。辞退の場合は、優勝チームに準決勝で敗れた3位チームに。更に辞退した場合は、準優勝チームに敗れた3位チーム出場権を与える。以下は出場権なし。
『第5回北海道中学校軟式野球選抜選手権大会』	全十勝秋季大会優勝チームに優先出場権を与える。辞退の場合は、準優勝チームに。順次、3位チーム・4位チームと出場権が移る。以下は出場権なし。
『第13回道東ブロック中学校秋季軟式野球大会』	全十勝秋季大会準優勝チーム・3位チームに出場権を与える。今年度は、十勝開催ということで4位チームを開催地枠代表とする。

※、北海道中学軟式野球選抜選手権大会を辞退し、道東大会へ参加することは認めない。

- (7) 道東大会の運営に関わって
全十勝夏季大会閉会式終了後、場所を移して会議を行いたいと考えております。全十勝夏季大会前に案内を出しますのでご参加よろしくお願ひします。(専門委員のみの会議)
- (8) 選抜大会について
昨年度までは、南部・東北部合同チームとしていたが、今年度は、それぞれ単独でチームを出す。(各方面それぞれ1チームを編成する)。帯広市は市の専門部会で2チームのままか1チームにするかを検討する。また、それにより参加チーム数が7または6になるため、大会の持ち方についても変更あり。
- (9) 合同チームの報告・承認
→新得・屈足、札内東・糠内、本別・勇足・(仙美里)、
清水・御影、池田・高島の計5チーム が予定
- (10) プログラムやホームページ上に掲載する個人名等について
→各校年度当初に保護者の承諾を受けて下さい。

別紙

「十勝大会の運営に関わって」

昨年度の専門委員会、合同顧問会議で確認されたように、帯広市顧問だけの運営から今年度は、方面顧問まで枠を広げて各種大会の運営をしていく。

(案)

	大会名	会場	担当者	運営割り当て			
全 十 勝 春 季	1日目	音更	共栄・中井	帯広2名	北部2名	東部2名	
	1日目	芽室	南町・鎌田	帯広2名	西部2名	南部1名	東北1名
	2日目	音更	共栄・中井	帯広2名	北部2名	東部2名	
	2日目	芽室	南町・鎌田	帯広2名	西部2名	南部1名	東北1名
	3日目(準決・決勝)	帯森	南町・鎌田	帯広2名	北部1名	東部1名	西部1名
全 十 勝 夏 季	1日目	森	南町・鎌田	帯広2名	東部2名	北部2名	
	1日目	平和	帯三・里見	帯広2名	西部2名	南部1名	東北1名
	2日目	森	南町・鎌田	帯広2名	北部2名	東部2名	
	2日目	平和	帯三・里見	帯広2名	東部2名	西部2名	
	3日目(準決・決勝)	森	南町・鎌田	帯広2名	西部2名	北部2名	
全 十 勝 秋 季	1日目	平和	南町・鎌田	帯広2名	東部3名	東北1名	
	1日目	伏古	帯三・里見	帯広2名	北部3名	南部1名	
	2日目	平和	南町・鎌田	帯広2名	西部3名	南部1名	
	2日目	伏古	帯三・里見	帯広2名	東部3名	東北1名	
	3日目(準決・決勝) (準決・3位戦)	平和 伏古	南町・鎌田 帯三・里見	帯広2名 帯広2名	北部3名 西部3名	南部1名 南部1名	

※運営内容

グラウンド整備、スコアボード得点記入(補助)、トーナメント表記入、アナウンス補助、SBOスイッチ補助、当番校選手の補助全般、審判湯茶・おしぼり準備 その他(帯広の顧問の先生が運営の動きについて押さえています)

※雨天等で日程がスライドした場合は、運営委員の先生もスライドします。

※運営の先生方にお弁当が出ます。

※各大会ごとに、方面専門委員の先生は、南町中・鎌田まで氏名報告下さい。出場チームから選出してもらってもかまいません。各大会の監督会議前に再度お知らせします。

※選抜大会については、各方面選抜チームのスタッフ・選手が運営にあたる。

別紙

平成20年度 各種十勝大会の日程及び開催場所

大会名			『第30回全十勝中学校春季軟式野球大会』		
《 期 日 》	《 会 場 》	《 日 程 》			
6月 7日(土)	音更町営野球場	[Aブロック]	1回戦2試合	2回戦2試合	
	芽室町営球場	[Bブロック]	1回戦1試合	2回戦3試合	
8日(日)	音更町営野球場		2回戦2試合	3回戦2試合	
	芽室町営球場		2回戦1試合	3回戦2試合	
14日(土)	帯広の森野球場		準決勝2試合	決勝戦	閉会式
	帯広の森平和球場		(予備)		
予備 15日(日)	帯広の森野球場		(予備)		
《参加料》 15,000円					
《参加校》 19校【帯広市 6・東部 4・西部 3・南部 2・北部 3・東北部 1】					
《備考》全日本少年軟式野球大会北海道予選会：7月18日～21日（開催地：岩内・共和町）					

大会名			『第59回全十勝中学校夏季軟式野球大会』		
《 期 日 》	《 会 場 》	《 日 程 》			
7月 12日(土)	帯広の森野球場	[Aブロック]	1回戦2試合	2回戦2試合	
	帯広の森平和球場	[Bブロック]	1回戦1試合	2回戦3試合	
13日(日)	帯広の森野球場		2回戦2試合	3回戦2試合	
	帯広の森平和球場		2回戦1試合	3回戦2試合	
19日(土)	帯広の森野球場		準決勝2試合	決勝戦	閉会式
	帯広の森平和球場		(予備)		
予備 20日・21日	帯広の森野球場		(予備)		
《参加料》 15,000円					
《参加校》 19校【帯広市 6・東部 4・西部 3・南部 2・北部 3・東北部 1】					
《備考》◆『北海道大会』：8月1日～8月4日（開催地：岩内町・共和町）					
※申し込み締め切り：7月18日 ◆『全国大会』：8月19日～22日（開催地：長野県諏訪市）◆					
全道中学校軟式野球大会 準優勝チームが参加資格を獲得					

大会名			『第31回全十勝中学校秋季軟式野球大会』		
《 期 日 》	《 会 場 》	《 日 程 》			
9月 13日(土)	帯広の森平和野球場	[Aブロック]	1回戦1試合	2回戦3試合	
	伏古別公園球場	[Bブロック]	1回戦1試合	2回戦3試合	
14日(日)	帯広の森平和野球場		2回戦1試合	3回戦2試合	
	伏古別公園球場		2回戦1試合	3回戦2試合	
20日(土)	帯広の森平和野球場		準決勝2試合	決勝戦	閉会式
	伏古別公園球場		(予備使用なしの場合)	準決勝1試合	
予備 15日・21日	帯広の森野球場		(予備)		
《参加料》 15,000円					
《参加校》 18校【帯広市 6・東部 3・西部 3・南部 2・北部 3・東北部 1】					
《備考》第5回全道中学軟式野球選抜選手権大会 10月11日～13日 開催地：滝川市中心					

大会名			『第13回道東ブロック中学校秋季野球大会』		
《 期 日 》	《 会 場 》	《 日 程 》			
10月11日(土)	帯広の森野球場		開会式	1回戦2試合	
	予定	帯広の森平和球場		1回戦2試合	
12日(日)	予定	帯広の森野球場		準決勝	3・4位決定戦 ※交流試合 南町球場
	予定	帯広の森平和球場		準決勝	決勝戦
予備 13日(祝)	伏古別公園野球場		(予備日)		
《参加料》 15,000円					
《参加校》 8校【全十勝2校・釧路2校・網走2校・根室1校・開催地1校】					
《備考》 ※検討事項あり					

大会名 『第7回全十勝中学校選抜野球選手権大会』		
《 期 日 》	《 会 場 》	《 日 程 》
8月 5日(火)	幕別町営野球場・音更町営球場 伏古別公園球場	予選リーグ総当たり2試合
6日(水)	幕別町営野球場・音更町営球場 伏古別公園球場	順位決定戦
予備7日(木)		
《参加料》	30,000円	
《参加数》	6チーム	予備日7日(木)
《備 考》		

『大会特別規則』及び『申し合わせ事項』案

1. 『競技規則と競技方法』

◎試合はすべて2008年度公認野球規則及び大会特別規則のもとに行う。

- (1) 全試合トーナメント方式とし、各試合は7イニングスとする。
- (2) 得点差によるコールドゲームは5回終了以降8点差とする。但し、決勝戦には適用しない。また降雨・暗黒によるコールドゲームも、5回終了をもって正式試合とする。

なお、5回終了前までに降雨、暗黒及びその他の事情で試合続行不可能となったときは、翌日の第1試合に先立って再試合として行う。また、5回以降同点の時は特別継続試合として行う。ただし、決勝戦においては再試合として行う。特別継続試合は、もとの試合の中断された個所から再開し、出場者や打順ももとの試合と同一でなければならない。規定によって認められる選手交代は認められる。

(降雨・暗黒等の天候状況による試合続行の可否判断は、審判団との協議による)

- (3) 7回終了時同点の場合は、以下の通りとする。

《春季大会》延長戦は行わず、8回以降特別延長戦を適用する。

《夏季大会》9回まで延長戦を行い、10回以降特別延長戦を適用する。

《秋季大会》延長戦は行わず、8回以降特別延長戦を適用する。

※試合結果（スコア）は次のように表記する。 [例] 0(2) - 0(1)

【特別延長戦】

『定義』最終回の最終打者の次の打者を1番打者として無死満塁の状態から攻撃を行う。走者は1塁が最終回最終打者、2塁及び3塁走者には最終打者の前の打者、前の前の打者が入ることとなる。

《春季大会》延長戦は行わず、8回以降は特別延長戦を勝敗が決するまで行う。

《夏季大会》9回まで延長戦を行い、10回以降は特別延長戦を勝敗が決するまで行う。

《秋季大会》延長戦は行わず、8回以降は10回まで特別延長戦を行う。それでも勝敗が決しない場合は、最終出場選手9名による抽選を行い、勝敗を決する。但し、決勝戦には適用せず特別延長戦を勝敗が決するまで繰り返す。

- (4) 背番号は1～20とし、原則としてポジション別とする。

- (5) その他の大会（グラウンド）特別規則については別に定める。

2. 『大会特別規則』

《 試合前 》

- (1) 出場チームは、試合開始予定1時間前までには球場に到着すること。

- (2) 球場内での練習は、キャッチボール・トスバッティング程度とする。また、芝生内のスパイクでの練習を禁止する。（フリーまたはハーフバッティングは禁止）

- (3) メンバー表の提出交換は、試合開始40分前あるいは前の試合の4回終了時に行う。メンバー表は主将が3部（ふり仮名つき）を本部に提出し、その場で攻守を決定する。試合球は1試合につき各チームが3個負担する。

- (4) ベンチは抽選番号の若い方が一塁側とする。

- ☆(5) フィールディングは、後攻側から始めて7分間（2分前指示）とし、ノッカーは登録者で、ユニフォーム着用とする。ノッカーのサングラスは認めない。なお、フィールディングには3名までの補助員を認める。服装は練習着や学校ジャージでも可とするが、危険防止のためヘルメットを着用するのが望ましい。また、フィールディングは状況に応じて省略する場合がある。

- (6) 先発バッテリーには、メンバー表交換終了後、指定されたブルペンの投球練習を認める。但し、試合中のチームの了承を得ること。（球場によって差異あり）

- ☆(7) 選手のユニフォーム、用具類は華美にならないように留意すること。(ハイカットストッキングやソックス一体型のもの・アーチのないものは禁止)
- (8) ユニフォームのストッキングは、はっきり見えるように履くこと。
- (9) 相手チームのフィールディング中はベンチまたはベンチ前にて待機すること。ファウルエリアで素振りやスタート練習などは行わない。

《 試合中 》

- (1) 自軍ベンチ側のファールボールは、速やかに拾いに行き、ボールボーイに手渡すこと。なお、ボールボーイは当番校が行う。
- (2) 攻守の交代は迅速に行い、先頭打者とコーチは円陣には参加せず、速やかに所定の位置につくこと。また、ボールはマウンド上にきちんと置くこと。
- (3) 各回の投手の練習球は、初回7球、2回以降3球とする。(状況により変更あり)
- (4) 投手は投手板(プレート)についてサインを見ること。また、投手からのサインは禁止する。
- (5) 次打者は必ずウェイティングサークルへ入り低い姿勢で待機する。バット、マスコットバットの持ち込みは差し支えないが、プレイの状況に注意し、適切な処置をすること。(グラブ、スプレー類の持ち込みは禁止する)また、四死球などで出塁する場合はバットは投げずに置くか、控え選手に手渡すこと。
- (6) 打者はバッターボックス内にてサインを見ること。
- (7) ボール回しは野手の定位置から速やかに行うこと。(状況により変更あり)
- ☆(8) 控え選手は試合中、ベンチ内にいること。バットボーイは登録選手が行うこととし、危険防止のため打者用ヘルメットを着用するのが望ましい。
- (9) メガホンはベンチ内1個とする。
- (10) ベンチ以外からの指示は絶対厳禁とする。
- (11) 選手応援では、相手選手や審判団を誹謗するような言動は厳に慎むこと。また、中学生にふさわしくない言動や行動があれば、その試合の出場を停止する。(審判団から監督への指示で自主的に)
- (12) リストバンド、チタンプレス、チタンや磁気ネックレスなどを身につけての出場を禁止する。またバットリング、鉄棒類の使用・持ち込みもできないものとする。但し、テーピングはケガ等の場合に限り、大会本部の許可のもとに使用する。しかし、投手の指先へのテーピングは一切認められない。
- (13) 手袋の使用は認めるが、色は高野連に準じて白または黒一色のものとする。
- (14) 突然の負傷などの治療で一時走者を代えたい場合は、審判に申し出て、審判団が必要と認めた時は、これを許可する。
(試合に出ている9人の中から代走：打順の前位の者、ただし投手を除く)
- (15) 選手交代の申し出は、監督が行うこと。また、審判員のルール適用に対する疑義の申し出は監督または該当選手に限りできるが、判定に対しての抗議は一切できない。監督が疑義の申し出をする場合はファールラインを越えてダイヤモンド内に入ることはできない。またコーチはベンチから出ることができない。
- (16) 無用のタイムは慎み、試合進行に協力すること。監督が試合中ベンチから出て選手に指示することを禁止する。必要のある場合はタイムをとり、伝令により指示するか、または選手をベンチ前に呼び指示する。
- (17) 公認規則3・03原注(投手は、1イニングで投手以外の守備に2度以上つくことは許されない)は本大会では適用しない。ただし、タイムについては以下のように規定する。
 - ① 監督が1イニングに2度以上投手または投手を含む選手に対し伝令を出すか、ベンチ前に呼び寄せた場合、自動的に投手交代となる。
 - ② 捕手または内野手2人以上が試合中にタイムを取って投手の所に行ける回数は3回以内とする。(特別)延長時は2イニングに1回とする。
 - ③ 攻撃側のタイム中に守備側の監督またはコーチが選手を呼び寄せ、指示を出すのは差し支えないが、その際にプレーの再開を遅らせた場合は①とみなす。
- (18) 攻守交代時、守備側の控え選手はベンチ内またはベンチ前で待機する。また、攻撃側の選手は次打者以外ベンチを出て素振りをしてはいけない。
- (19) 公認規則7・06(a)の7・06(a)【付記】(捕手のブロック)の適用について、中体連では『ボールを保持しているときにしか塁線上に位置することはできない』ことと

する。この規則はあくまでも重大な危険回避のために制定するものである。

[規則適用の解釈]

- ①走塁妨害を適用するのは、あくまでも捕手のその行為がなければ当然本塁に到達できたと判断される場合だけである。
- ②捕手が走塁妨害を犯したにもかかわらず、瞬間的に「アウト」のコールをしてしまった場合でも改めて「オブストラクション」を宣告することができる。
- ③走塁妨害適用外の場合においても、そのような行為があった場合は直ちに試合を停止した後、捕手に対して嚴重注意すること。なお、本塁以外の塁上においても同様とする。また、空タッチも禁止する。
- ④ボールを保持する前に立てる位置は次の通りとする。
 - ・ホームベースの中央線より右側に立ち、ベースの左半分は必ず走者に見えるように空けておくこと。
 - ・捕手がホームベースよりも後方に位置する場合でもベースを隠すように3塁方向前方へ出てはいけない。
- ⑤ボールを保持している場合、または送球を捕球しようと上記位置に移動する場合はこの限りではない。

☆(20) 1塁及び3塁コーチャーには必ず登録選手が入らなければならない。また、その際は危険防止のため打者用ヘルメットを着用するのが望ましい。

《 試合後、その他 》

- (1) 試合終了後の挨拶で全てを完了とし、ベンチ前や本部への挨拶は必要とせず、次の試合のためにベンチを速やかにあけること。(勝ちチームは、次の試合のフィールドイング終了後にグラウンド整備を行うこと)
- (2) ベンチ入りは、登録選手20名、当該学校長・部長・監督・コーチ各1名のほか、スコアラー(生徒)1名、マネージャー(生徒)2名以内とする。監督・コーチ選手とともに同一ユニフォーム及び同色スパイクとし、部長がノッカーの場合もユニフォーム着用する。スコアラー・マネージャーが女子の場合はジャージ着用も可とする。
- (3) 選手の頭髪、身なり、言動、態度は中学生らしく、試合中はもちろんのこと、試合の前後においてもスポーツマンらしく行動すること。また、プレーにおけるマナー(素早い攻守交代・無用な砂かけの禁止等)にも十分留意すること。
- ☆(4) 危険防止のため、捕手には必ずレガース・ヘルメット・プロテクター・スロートガードの着用を義務付ける。急所カッパは着用するのが望ましい。投球練習時の控え捕手についても同様にする。
また、打者及び走者においても両耳ヘルメットの着用を義務づける。
- (5) 球場の使用にあたっては、選手・父母関係者ともに公共施設の使用であることを十分に理解し、美化や使用上の注意事項、マナーやエチケットなどには十分に留意すること。
- (6) 大会中の負傷等については、各チームで応急処置ができるよう準備しておくこと。
- (7) 雨天による大会実施の可否の判断及び日程変更等については、午前5時30分以降に大会運営本部より連絡する。
- (8) 本大会参加者は大会運営上必要なプログラム、掲示板、ホームページ及び記録集への氏名・所属・学年・その他必要事項の記載について了承するものとする。
- (9) 本大会(中体連主催大会)に参加する者は、軟野連主催全日本少年野球大会に登録及び参加することはできない。ただし、日程が重ならない場合はその限りではない。
- (10) 監督会議での説明及び上記の事項については、選手全員・父母等関係者へ周知、徹底しなければならない。

※以上の事項は、日本中体連軟式野球競技部及び北海道中体連軟式野球専門委員会作成の「大会特別規則並びに申し合わせ事項」に準拠して作成したものです。